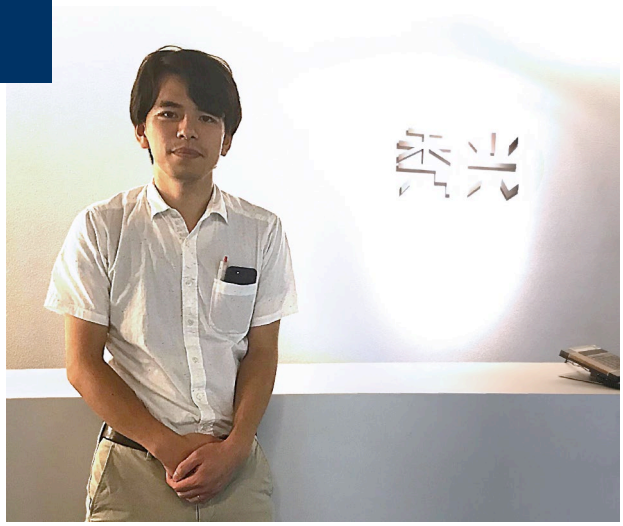
自由度の高い空間デザインを実現
MAXHUBの優れた機能

MAXHUB



企業名　：株式会社 秀光
業種　：家具製造販売/内装工事
利用シーン：社内外会議・打合せ
企業概要　：企業概要：家具の製造販売からオフィス内装のデザイン・施工までを手掛けるものづくり企業。
メガバンクをはじめとした銀行店舗を中心に使いやすさ・美しさ・環境を考えた空間作りを行う。

**家具の設計製造から空間全体のプロデュースを手掛ける秀光様。
本社を含む全国3拠点でMAXHUBを活用している一方で、
現在はお客様への空間デザインの提案にもMAXHUBを取り入れています。
今回はデザイン会社ならではの視点からMAXHUBの活用法や魅力について、
企画・広報ユニット 鈴木様にお話しを伺いました。**

導入前の課題

» CG等のツール利用により社内の大半がデスクトップPCを活用。
持ち運びができず、会議で個人PC内のデータを投影できない。

» 各拠点を繋いだ全社朝礼時、ホスト（管理者）の参加者管理が負担に。

» WEB会議設備の配線（ケーブル類）が会議室空間作りの障壁となっていた。

導入後の変化

» ドングルの活用でデスクトップPC内のデータをワイヤレス投影でき、
会議の効率性が向上。

» 人数の多い拠点では会議室に集まりMAXHUBから会議に参加、
ホストの負担が圧倒的に低減。

» 配線に左右されない空間デザインが可能に。

時代に合わせた空間作りの中で見つけたMAXHUB

イグアス：コロナが始まった頃からMAXHUBを本社に導入されたと伺っています。導入のきっかけはどのようなことでしたのでしょうか。

鈴木様：まず、当社のお客様は金融機関が約7割を占めていて、銀行の店舗空間を総合的にプロデュースする役割を担っています。店舗ごとに時代のニーズや地域性を踏まえながら、お客様の意見を取りまとめ、最適な店舗空間を提案しています。ちょうどコロナが始まった頃WEB会議の需要が高まり、お客様からもWEB会議に対応した店舗やオフィス作りが求められるようになりました。
しかしWEB会議対応と一言で言っても、モニター、カメラ、マイクなど複数の機材を設置する必要性があり、何本もの配線を上手くカバーすることに対して、下請け業者とのやり取りを含め煩雑になり検討に多くの工数がかかっていました。このままでは生産性に支障が出ると思い、配線が少なく済むようなスマートな機械はないのかと探し始めたのがMAXHUBと出会ったきっかけです。

生産性を向上させた機能とは

イグアス：初めはお客様の案件を対応する中で、その課題解決策としてMAXHUBを見つけられたのですね。御社のオフィスにも2台のMAXHUBが設置されていますが、こちらの導入についてはいかがでしょうか。

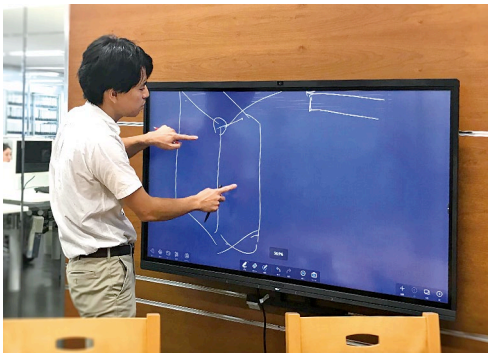
鈴木様：弊社の川崎本社オフィスは、「ライブオフィス」という形で社員が業務を行う空間にショールームの機能を持たせています。そのため机や椅子・壁・床に至るまで全てお客様に提案できるものを活用しています。MAXHUBもその1つとして会議室やMTGスペースに設置しました。社員が活用している様子を生で見て頂くことで、お客様自身がイメージしやすくなりますし、私たちも実際に使うことでユーザー視点での感想をお客様に伝えることができます。

イグアス：実際に自分達が使ってみてより良いものを提案するということなのですね。では、MAXHUBを活用して何か変化したことはありましたか。

鈴木様：まずは冒頭でもお話した通り、配線にとらわれない自由な空間デザインが可能になったことですね。業者とのやり取りが少なくなり業務の効率性が向上したことに加えて、配線の数も3→1本に減少したことで提案の幅が広がり、結果、会議システム優先の空間設計ではなく、空間のコンセプトに沿った自由な家具の設計を行うことが可能になりました。

次に、オンラインによる全体朝礼が非常にスムーズになりました。コロナをきっかけに全体朝礼がオンラインへシフトされたのですが、それぞれ個人PCから参加するため、1つのミーティングルームに200名以上が参加している状態で、開始に時間がかかったり、参加者管理や音の問題など、ホスト（管理者）の負担が大きかったのです。弊社は川崎本社のほかに、大阪・福岡事業所にもMAXHUBを導入しているため、MAXHUBから会議に参加するように変更したことで、PCとホストの接続数がグンと減って会議の開始も早くなり、ホストの負担も削減されました。

また、個人的にはドングルが便利で、頻度高く活用しています。当社は業種柄CGや3Dデータを扱うため、営業以外の社員ほとんどがデスクトップPCを使っています。作業パフォーマンスは良いのですが、PCの移動ができないので、打ち合わせ中に自分のPCにある図面を画面に投影できないのが不便でした。その点、ドングルを使えばボタン1つでMAXHUBに投影できるので、会議の前にドングルを自席のPCに差しておけば、会議中にMAXHUBから自席のPC内を操作することが可能になり、打合せ時も同じ空間で画面を見ながら会話できるのでとても便利です。結果的に意思疎通がスムーズになり、業務の効率性が上がりました。



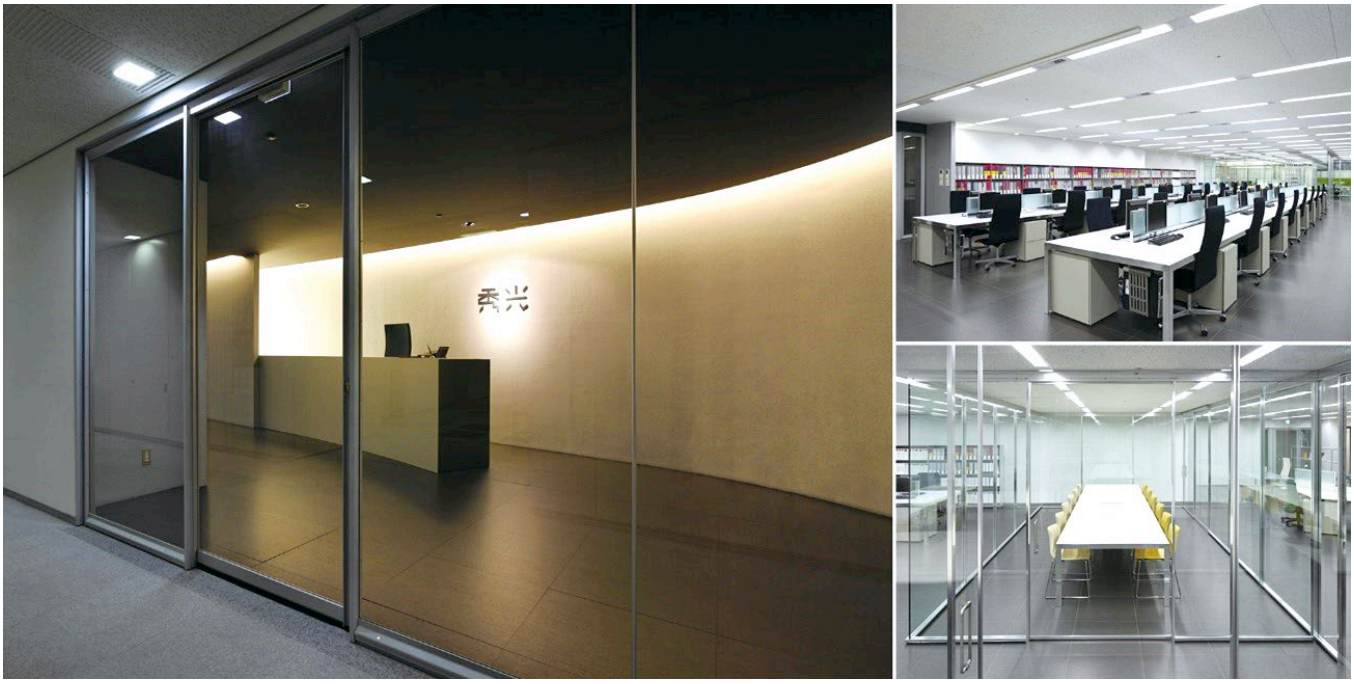
イグアス：なるほど。デスクトップPCだからこそ“ドングル”が有効なのですね。この活用方法は設計・デザインに関る業種ならではと感じます。

便利だからこそ多くの方に使ってほしい

イグアス：MAXHUBを導入されるお客様は会議の効率化を目的に、MAXHUBの機能に魅力を感じて導入する企業様が多いのですが、空間デザインを行う御社の視点から、MAXHUBをどのように捉えていらっしゃいますか。

鈴木様：そうですね。周辺機器の数が圧倒的に少ないという点で、空間デザインの自由度は大きく上がると思います。
我々は、もともとは家具メーカーですが、自社の家具や素材を生かした空間の提案やプロデュースを行っています。クライアントの業務内容や働き方、仕事の流れなどを踏まえて、デスクや会議室などの配置検討を行いながら、セミオーダーの形式でオフィスのレイアウトを考えていきます。MAXHUBであれば会議システムを優先して設計変更を行ったり、パーティションの仕様や範囲を変えたりということもなくなりますし、そのうえで使い勝手も良いという、提案する側からみればまさに理想のモニターに出会ったなと思います。

イグアス：本日は設計・デザインの視点からお話しを伺うことができ、新しい発見がありました。貴重なお話しをありがとうございました。



※写真は秀光様Webサイトより

MAXHUB

パートナービジネス事業部
ソリューション本部
オープンシステム営業部

ig_ns@i-guazu.co.jp

https://www.i-guazu.co.jp/lp/maxhub/